

朔啓二郎



福岡大学学長

山口政俊前学長の任期満了に伴い、2019年12月1日付で朔啓二郎医学部教授が福岡大学の卒業生として初の学長に就任した。

朔新学長は1952年福岡市生まれ。医学博士。1978年福岡大学医学部医学科を卒業。1981年から4年間米国シンシナティ大学に留学。1988年福岡大学病院内科第二講師、2000年同大学医学部内科学第二（心臓・血管内科学）に講座名変更）主任教授に就任。その後、

福岡大学病院副病院長、医学部長（学校法人福岡大学理事、同評議員を併任）を歴任し、現在に至る。

専門分野は心臓・血管内科学であり、特に虚血性心臓病の危険因子、リポ蛋白代謝をテーマとして研究する。論文・著書多数。日本循環器学会理事および日本心臓病学会理事などを務めた。現在は所属する学会活動

のほか、Fellow of American College of Physicians (FACP) / Fellow of American College of Cardiology (FACC) も務める。

朔新学長は大学創立100周年に向け、「建学の精神」と「教育研究の理念」に基づく全人教育をとおして、次世代を担い社会を支える有為な人材の育成に邁進していくとしている。また、本学の第一の使命である教育について、「共育」の字を充て、学生、教職員、卒業生そして地域社会が一体となって共に成長・発展することを目指す考えを示している。

内村直尚



久留米大学学長

任期満了で退任する永田見生学長の後任として、内村直尚教授が2020年1月1日付で第11代学長に就任した。

内村学長は、1956年福岡県生まれ。1986年久留米大学大学院医学研究科生理系専攻博士課程修了後、医学部神経精神医学講座助手を務め、1987年から2年間、米国に留学。2007年4月には医学部神経精神医学講座教授に就任し、久留米大学病院副院長、医学部長、

副学長などを歴任。

専門は精神医学で、日本初の睡眠障害専門外来を開設し、チームを牽引してきた睡眠障害のエキスパート。

これまで「地域に貢献できる臨床家の育成」を使命に、現場に強い医師を数多く育ててきた。また診療現場では、院内だけでなく医師会や弁護士会とも連携してうつ病患者をサポートする「久留米方式」と呼ばれる組織を立ち上げるなど、地域医療を支える取り組みも積極的に進めてきた。

九州医学専門学校を前身として1928年に創立した本学は、90有余年の歴史を経て、現在では6学部13学科4大学院研究科を擁する私立総合大学へと発展を遂げてきた。新学長のリーダーシップのもと、建学の精神「国手の矜持は常に仁なり」に掲げる、仁（礼にもとづく自己抑制と他者への思いやり）ある人材育成で「学生が夢を抱ける」大学づくりを目指し、新たな歩みを進めている。

梶田 勲一 桃山学院教育大学学長。'66京都大学大学院修士課程修了。文学博士。大阪大学教授、京都大学教授、兵庫教育大学長などを経て、'18から現職。中教審副会長などを歴任。

菊野 一雄 山梨英和大学学長。慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了。経済学博士。立教大学教授、跡見学園女子大学教授などを経て、'17から現職。

島村 輝 フェリス女学院大学文学部教授。'89東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。女子美術大学を経て、'09から現職。著『臨界の近代日本文学』など。

中山浩二 聖学院大学学術支援部司書課長。
横田地 妙 創価大学図書館事務室副課長。東洋大学短期大学日本文学科卒業。

峰田 優一 全国大学生生活協同組合連合会 広報調査部部长。盛岡大学生協、岩手大学生協、東北大学生協を経て、'19から現職。

田上 雅徳 慶應義塾大学法学部教授。'97慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。法学博士。専門は西欧政治思想史。主著『初期カルヴァンの政治思想』など。

規矩大義 関東学院大学学長、理工学部教授。九州工業大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。専門は地盤防災工学で、主に地震時の液状化を研究。'13から現職。

南口 誠 長岡技術科学大学SDGs推進室長、工学研究科教授。長岡技術科学大学大学院工学研究科修了。博士(工学)。'16から現職。専門は材料加工・組織制御工学。

高橋 香代 岡山大学理事(企画・評価・総務担当)。岡山大学医学部卒。同大学教育学部長、第Ⅷ期中央教育審議会委員などを経て、'174月から現職。専門分野は学校保健学。

植田 光雄 関西大学学長室学長課 課長。

岩田 寿夫 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程1年。'193月慶應義塾大学環境情報学部卒。学士(環境情報学)。

飛田 満 目白大学社会学部長、地域社会学科教授、大学院国際交流研究科長。筑波大学大学院博士課程哲学・思想研究科修了。博士(文学)。

中田 婦美子 学校法人聖カタリナ学園理事長。上智大学大学院文学研究科英米文学専攻博士課程単位取得満期退学。'89から現職。

青木 聖久 日本福祉大学福祉経営学部教授。'12龍谷大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士(社会福祉学)。'06年から現職。主著『追体験霧晴れる時』ペンコム '19など。

後藤 昭 青山学院大学・一橋大学名誉教授。'83東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。法学博士。主著『捜査法の論理』など。

大内 章子 おおうちあきこ
関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授。慶応義塾大学商学部卒、総合商社勤務を経て、同大学院商学研究科博士課程修了。博士（商学）。三重大学を経て、現職。

阿部 重樹 あべしげき
東北学院大学経済学部共生社会経済学科教授、学長室長、地域共生推進機構長。

東北学院大学経済学研究科博士課程満期退学。経済学修士。

鎌田 薫 かまた かおる
教育再生実行会議座長、日本私立大学連盟顧問、早稲田大学名誉顧問、大正大学地域構想研究所最高顧問。70早稲田大学法学部卒。専門は民法学。

北原 秀治 きたはらひさぢ
東京女子医科大学医学部講師。博士（医学）。ハーバード大学博士研究員を経て、18から現職。早稲田大学院経済学研究科在学中。「論座」（朝日新聞社）レギュラー論者。

山下 範久 やまののりひさ
立命館大学グローバル教養学部副学部長、教授。01東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。北海道大学、立命館大学国際関係学部を経て、19から現職。

浅沼 薫奈 あさぬま かほな
大東文化大学東洋研究所特任講師、大東文化歴史資料館専任研究員。博士（学術）。主著『日本近代私立大学史再考』（学文社）ほか。

今中 明佳 いまなかあきよか
関西大学学長室学長課。

川久 保清 かわく ぼし
共立女子大学・共立女子短期大学学長。東京大学医学部卒。東京大学医学部助教授を経て、03共立女子大学家政学部教授。184月学長に就任。

村田 陽一 むらた ひろいち
静岡県出身、立正大学卒。洗足学園音楽大学ジャズコース講師。中学1年でトロンボーンを始め、大学在学中にプロ活動を開始、91にはファーストアルバムをリリース。演奏活動だけではなく、作曲・編曲やプロデュースなど、幅広い分野で活躍中。

川島 葵 かわしま あおい
フリーアナウンサー。上智大学文学部卒。東海ラジオ入社。12からフリー。東海ラジオ「TOKYO UPSIDE STATION」、川島葵の東京からも歌謡曲」などに出演。

〈お断り〉 本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

会長の動き 2020年
1月~2月

● 1月7日(火)
第8回理事会、令和元年度新年交歓会
に出席

● 2月4日(火)

第9回常務理事会、第9回理事会に出

席

● 2月20日(木)

全私学連合の「私学振興協議会」に出

席

私学振興協議会メンバーである国会議員に、令和元年度私学助成および税制改正のお礼を述べました。

高大接続改革に関するヒアリング
などへの対応について

私大連では、2月10日開催の自由民主党「文部科学部会・大学入試英語の適正実施に関するワーキングチーム」ならびに、2月13日開催の文部科学省「大学入試のあり方に関する検討会議」において意見発表を行いました。
発表資料は、いずれも私大連ウェブサイトで公表しています。

● 自由民主党「文部科学部会・大学入試英語の適正実施に関するワーキング

(<https://www.shidaiaren.or.jp/>)

チーム」ヒアリング

発表日…2020年2月10日(月)

登壇者・私大連教育研究委員会 沖清豪委員（早稲田大学文学学術院教授）

発表資料・ヒアリング事項に関する私大連の見解

● 文部科学省「大学入試のあり方に関する検討会議」意見発表

発表日…2020年2月13日(木)

発表者・同会議委員 芝井敬司私大連常務理事（関西大学学長）

発表資料・大学入試、特に大学入学共通テストのあり方に関する私大連の見解



文部科学省「大学入試のあり方に関する検討会議」で意見発表する芝井敬司私大連常務理事

開催報告

● 1月7日(火)

「新年交歓会」開催

私大連にご支援・ご協力をいただいている方々をお招きして開催する新年交歓会が開催され、長谷山彰会長の年頭あいさつ、鎌田薫顧問の乾杯の後、約370名のご出席者が新年の歓びを交わしました。

● 1月23日(木)

「第2回学長会議」開催

「私立大学の独自性ある教学マネジメントの確立に向けて」をテーマに、63大学70名の参加がありました。

● 2月3日(月)

「国の補助金等に関する説明会（第2回）」開催

加盟大学94大学、約350名の方々にお集まりいただき、「令和2年度私立大学関係（私学助成）政府予算案等」、「令和2年度国公私立大学を通じた大学教育再生の戦略的推進等に関する政府予算案」、「科学技術予算案」、「高等教育の修学支援新制度」について、文部科学省担当者による報告・説明がありました。

説明会終了後には、高等教育の修学支援新制度に関する各大学からの個別の質問に、文部科学省担当者にご対応いただきました。



クロースアップ
インタビュー
黒川光博さん

LGBT等の性的個性の多様性推進——名古屋大

学への取り組み——三枝麻由美

「ダイバーシティ推進宣言」ができるまで——京都

精華大学の試み 山田創平

性的指向・性自認に関する大学の課題 神谷悠一

すいそう 現代における自強不息 愛知太郎

小特集 大学の学事暦について考える「クオ-

ター制導入事例を中心に」

クォーター制導入の経緯と課題——南山大学の試

み 吉田竹也

4学期制導入の現状と課題——武威野大学にお

ける試みを事例に 北條英勝

柔軟な授業展開を可能とする授業時間割・学年暦

の実現——法政大学における授業時間の100

分化とセッション制度の導入 平山喜雄

クォーターを導入する工夫 藤田吾郎

分らない基本金 岡原宏一

私の授業実践——教育現場の最前線から

学生にとって「気づき」が得られる場をつくるた

めに 井上慶太

明日への試み

武威野大学データサイエンス学部

データサイエンス学部の挑戦〜新分野・新学修ス

タイルの新結合による教育イノベーション

上林憲行

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史

学園の使命と将来構想・昭和女子大学 保坂邦夫

加盟校の幸福度ランキングアップ《地方創生・地域

活性編》

地域の課題解決に取り組む「プロジェクト演習」

がスタート・フェリス女学院大学 佐藤 輝

地域創りリーダー養成プログラム・神戸女学院大

学 小林哲郎

天理発祥の刀根早生柿を南海難波駅で販売・天理

大学 岡田龍樹

クローズアップ・インタビュー

虎屋17代当主・代表取締役社長 黒川光博さんに聞

く (聞き手) 脇浜紀子

新会員代表者紹介

山本章正 (実践女子大学) / 針本正行 (國學院大

学) / 高祖敏明 (聖心女子大学) / 大西晴樹 (東

北学院大学)

表紙・大学点描 実践女子大学

だいがくのため 大東文化大学

巻頭言 社会を変える、世界を変える、女性の育

成 城島栄一郎

巻頭論文 トップに立って経営する快感

井出健治郎

座談会 大学における親子関係——教育、学生指

導を保護者と共にどう展開するのか——

祖父江健一 / 田澤 実 / 松木健一 / 内山秀一 / 司

会 兼高聖雄

特集 LGBT等に関する理解醸成と大学の取り

組み

CGSの活動から見えてきた課題

高松香奈

多様性の歴史を背負ったGSセンター

下田 啓

性の多様性を認め合うキャンパスへ

安食真城



クローズアップ
インタビュー
武下利一さん

巻頭言 「Memoria 記憶」をもつ大学 原田豊己

巻頭論文 高等教育における女子教育を考える 川久保清

座談会 私立大学におけるインターンシップ推進を振り返る

三橋秀彦／佐藤文博／木本浩一／久保秀雄／(司会)音好宏

特集 学生寮を活用した国際交流、グローバル人材育成の取り組み

グローバル教育のハブ・サロン機能 奥村経世

TUTグローバルハウス——成長へのバイラル 高嶋孝明／竹川清美

大学の教育力強化を目指す国際交流施設「PATIO」

PIA、八木雅史

国際寮「グローバル・ドミトリー」の挑戦

堀内一史
多文化交流を目的とした国際学生宿舍 下山裕司
国際的な文化交流、相互理解を育む美大の国際寮 森敏生

すいそう 父の背中 植木 實

特別インタビュー

大学スポーツ振興の社会的意義——大学スポーツ

協会 (UNIVAS) の設立 鎌田 薫

(聞き手) 山田健太／長野 香

定員管理に関する私大連の意見 坂下嬢子

私大連フォーラム2019——「高等教育政策と

公財政支援」総括

私の授業実践——教育現場の最前線から

現代社会の中の大学教育——双方向的な教育の取

り組み 小林信重

明日への試み

京都産業大学国際関係学部

新たな「グローバル人材」育成を目指して 鈴木清巳

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史

アジア近代化の開拓者を生んだ学校教育——拓殖

大学国際人材育成の軌跡・拓殖大学 長谷部茂

加盟校の幸福度ランキングアップ《グローバル事業

(イベント)編》

ヴィジョンを高める海外ピースタディ・広島女
学院大学 宇根 治

タイ長期フィールドスタディで、自分が変わる

グローバル市民を育てる——汝の光を輝かせ——

恵泉女学園大学 押山正紀

伊勢から世界へ、世界から伊勢へ——「伊勢」と

日本スタディプログラム・皇學館大学 玉田 功

クローズアップ・インタビュー

トナミ運輸バドミントン部アシスタントコーチ

武下利一さんに聞く (聞き手) 外川智恵

新会員代表者紹介

日比野英子(京都橘大学)／高橋圭三(松山東雲女

子大学)／吉川 洋(立正大学)／富田敬子(常

磐大学)

新加盟大学紹介

金沢星稜大学

新加盟大学会員代表者紹介

篠崎尚夫(金沢星稜大学)

表紙・大学点描 ノートルダム清心女子大学

だいがくのたから 聖学院大学

第388号(2019・9)



クローズアップ
インタビュー
少路和伸さん

巻頭言 自省利他

巻頭論文 評価をめぐる雑考

入澤 崇
大場昌子

座談会 学生実態調査の活用と課題

江原昭博／前田浩司／前畑良幸／(司会) 音 好宏

特集 留学生に対する学習面での日本語サポート

留学生に寄り添う日本語自律学習支援 寅丸真澄

兵庫国際交流会館でのライティング支援——神戸

大学の取り組み——森田耕平

大学院における留学生支援——明治大学の日本語

論文作成支援を中心に——外池 力

学内リソースを生かした日本語サポートの設計——

「オール立教」の取り組みが留学生へのメッセージ——

丸山千歌

ずいそう 看護教育雑感 糸魚川順

小特集 大学の事務業務改革

新たな働き方により、新たな価値創造を——上智

大学における取り組み(在宅勤務制度と窓口時

間短縮)——須田誠一

ICTを活用した働き方改革——近大流大学業務

改革——高木純平／前川昌則

4学部を「つなぐ」ことによって目指すもの——

法政大学多摩事務部学務課の取り組み——須藤智徳

事務組織の課題と改編 永和田隆一

私の授業実践——教育現場の最前線から

情報過多な授業の見直し 柴田佳純

明日への試み

中央大学国際経営学部

経営学教育のグローバル化への挑戦 河合 久

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史

場所の磁力 引き継がれたものたち・国際基督教

大学 松山龍彦

加盟校の幸福度ランキングアップ(AI(人工知能)

編)

高大産連携プロジェクトによる地域振興・石巻専

修大学 佐々木慶文

AI活用人材の育成・関西学院大学 已波弘佳

クローズアップ・インタビュー

画家 少路和伸さんに聞く(聞き手) 外川智恵

表紙・大学点描 龍谷大学
だいがくのだから 津田塾大学

第389号 (2019・11)



クローズアップ
インタビュー
阿部賀寿男さん

巻頭言 Hominis Dignitati (人間の尊厳のために)

巻頭論文 創立100周年に向けて 永尾教昭

座談会 大学広報紙の課題と展望

小室和子／長野留三子／調麻佐志／花岡正樹／(司

会) 山田健太

特集 東京2020オリンピック・パラリンピ

ック競技大会開催と連携した大学の取り組み

オリンピック・パラリンピック教育の普及と支援

秋和真澄

実践、渋谷そして五輪——学生がつないだ6年間

深澤晶久

の軌跡 全国外大連合による「通訳ボランティア育成の取

り組み」〜神田外語大学の成果と今後の展望〜

朴ジョンヨン

ずいそう P D C A 根津公一

私の授業実践——教育現場の最前線から

「丸暗記型」から「思考過程解明型」へ 笹山文徳

明日への試み

青山学院大学コミュニティ人間科学部

大学による地域貢献を目指して 鈴木眞理

加盟校の幸福度ランキングアップ(小中学生向けイ

ベント編)

近隣小学校児童を対象とした学生主体による体験

型イベント「立命の家」立命館大学 岩谷絢子

理学部における地域貢献活動と教育活動——小中

学生向け実験工作教室の実施——東邦大学 畑中敏伸

未来のいのちと健康を支えるのは「あなた」

——女子中高生の理系進路選択支援プログラム・

東京女子医科大学 岡田みどり

クローズアップ・インタビュー

株式会社阿部蒲鉾店代表取締役社長

阿部賀寿男さんに聞く (聞き手) 川島 葵

新会員代表者紹介

吉田謙一郎(獨協学園)／保立和夫(豊田工業大

学)／田中愛治(早稲田大学)

表紙・大学点描 南山大学

だいがくのたから 東北公益文科大学

第390号(2020・1)



クローズアップ
インタビュー
塚田真希さん

年頭所感 自由で多様な大学が個性豊かな人材を育てる

巻頭言 誠実↑社会に役立つ 篠崎尚夫

巻頭論文 女性の生き方をサポートする女子大学 平川 新

座談会 変わりゆくオープンキャンパスのあり方

石川さゆり／高原幸治／渡辺 篤／佐藤信行／司

(各) 兼高聖雄

特集 学生食堂の課題と今後のあり方

持続可能な学食運営への問題と解決策——味覚化から視覚化へ—— 桜田東樹

学生食堂の直営化が生み出したもの——魅力ある

食堂づくりと教育の場の両立—— 津田謹輔

学生が学食に積極的なコミット——昭和女子大学

の取り組み—— 松丸英治

つどうつながる つくりだす——学生・教職員・

地域社会のプラットフォームへ—— 東海林真巳

新津駅前まちなか学生食堂——学生ランチMAP

プロジェクト 石川善樹

すいそう 継続性のある中長期計画を目指して 田代康則

小特集 多様化する授業時間 稲葉興己

100分授業の展開

105分授業への移行経緯と現況——大阪学院大

学における教育課程・4学期制と一体化した授

業時間変更の試み—— 大野昌一

100分14週授業導入の機会を生かす 榊原暢久

105分授業の経緯と実践——東京大学の試み 森山 工

私の授業実践——教育現場の最前線から

スライドデザインとアート——ビジュアルデザイ

ンの重要性—— 佐藤涼一

明日への試み

武蔵野大学経営学部

大変動期の経営学部教育の実践を考える 古川一郎

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史

多様でやわらかなキャンパスを求めて——関西大

学千里山キャンパスの100年と村野藤吾・関

西大 橋寺知子

加盟校の幸福度ランキングアップ(小中学生向けイ

ベント編)

早期リベラルアーツ教育提供の試み・国際基督教

大学 川島美菜

学生を通じて広い世界と英語に触れる・桃山学院

大学 友沢昭江

小中学生向け科学実験教室「ユニラブ」・早稲田大

学 橘 和希

クローズアップ・インタビュー

東海大学体育学部講師、全日本柔道連盟全日本強

化スタッフ・女子コーチ 塚田真希さんに聞く

(聞き手) 外川智恵

新会員代表者紹介

高橋秀裕 (大正大学)

表紙・大学点描 金沢星稜大学

だいがくのたから 聖路加国際大学

第391号 (2020・3)



クローズアップインタビュー
村田陽一さん

巻頭言 人間力と共感共働性の育成 梶田 毅一
巻頭論文 創立130周年を終えるに当たって 菊野 一雄

座談会 学生の読書実態と大学の読書啓発活動 島村 輝／中山浩二／横田地妙／峰田優一／(司

会) 田上雅徳

特集 SDGsに向けた大学の取り組み

高等教育機関にとつてのSDGsとは 規矩大義
「技学」の理念のもと、SDGsへの取り組みを推進するSDGsハブ大学 南口 誠

SDGs 大学経営とパートナーシップ 高橋香代
教学トップによるプロジェクト推進——世界の共通言語SDGs×関大の考動力—— 植田光雄
キャンパスSDGsプロジェクト 学生主体の

SDGs認知度向上の取り組み

岩田寿夫

SDGsで未来へ飛躍!

～目白大学の新たな挑戦～

飛田 満

すいそく 平和の巡礼者 教皇フランシスコ

中田 婦美子

小特集 履修証明プログラム活用の現状

社会人経験とプログラムの循環

青木 聖久

司法通訳養成講座の経験

後藤 昭

女性活躍を推進するリカレント教育

——関西学院大学ハッピーキャリアプログラム
の取り組み——

大内 章子

CSWSキルアッププログラムについて

阿部 重樹

教育再生実行会議における大学入試改革の基本理念

念

鎌田 薫

私の授業実践——教育現場の最前線から

古典的講義からの脱却

北原 秀治

明日への試み

立命館大学グローバル教養学部

時代の要請に応えるリベラルアーツ教育

山下 範久

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史

キャンパスの変遷と学生の多様化・大東文化大学

浅沼 薫奈

加盟校の幸福度ランキングアップ《学長コラム編》

学長コラム「芝井の目」の先に見えるもの・関西

大学

今中 明佳

「学長ブログ」で広げる大学のファン開拓の可能性・共立女子大学

性・共立女子大学

川久 保清

クローズアップ・インタビュー

トロンボーン奏者 村田陽一さんに聞く

(聞き手) 川島 葵

新会員代表者紹介

朔啓二郎(福岡大学)

新学長紹介

内村直尚(久留米大学)

表紙・大学点描 桃山学院教育大学

だいがくのたから 天理大学

座談会 「大学イメージの定着化によるブランディング」

特集 「国内留学制度の現状と課題」

小特集 「大学専用アプリによる情報発信」

大学点描 東京経済大学 だいがくのたから 成城大学

クローズアップ・インタビュー：

「水野 正人さん（ミズノ株式会社相談役）」

編集後記

◆先日、協定校の学生からインタビューを受ける機会があり、大学のCSRに関する取り組みの有無について質問を受けた。折しも、学内でSDGsに関する取り組みをまとめる動きがあったので、その一部を紹介させてもらった。

海外の大学では、SDGsも含めて、このような取り組みが進んでいる印象を受けましたが、一方、上辺だけの取り組み、いわゆる「SDGsウォッシュ」と誹られるものも増えているとのコメントを聞き、少しこじつけがあっても、本業と社会貢献を結び付ける機会になることは悪くないのではと考えていた自分の理解、認識の薄さを痛感した。

大学は産業界よりもSDGsに対する取り組みを純粋にアピールできる面があることも事実だと思うが、今回の特集で関東学院大学の規矩学長が指摘しているように、将来の「人材育成」という大学の大きな存在意義の一つをいま一度意識し、SDGsを実際の行動に結び付けることはあっておけばよい」という思考停止に陥ってはならな

いことを意識しておく必要があると考えた。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・上智大学総務局SUGU事業推進室長 中山 映）

◆「習うは一生」といわれるが、人生100年時代を迎え、生涯を通じた学びの必要性がこれまで以上に高まっている。社会の学びのニーズに応えるために大学が提供する履修証明プログラムも変遷を経て多様なプログラムが開講されている。法改正によって総時間数が60時間に短縮されたため、スモールサイズのプログラム設計が可能となり、より敷居を低くして受講しやすくなるようになった。

今回の小特集「履修証明プログラム活用」では、4大学からさまざまな取り組みをご紹介いただいた。それぞれの大学内にある教育研究資源が生かされた内容となっており、プログラムの内容が受講者のニーズに合っているか事前調査を行っている大学もあつたが、プログラム開発には多大な苦心が伴っていることが推察された。学びの必要性が高まる状態が続く限り、履修証明プログラムは、今後も学びの大切な場として大いに期待できるの

ではなかるうか。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・園田学園女子大学教学支援部 教務課課長 西崎 公哉）

◆「読書をしなさい」と義務教育期間中に学校と親から言われ続けた。その間、自主的に読んだ本といえは、漫画、国語辞典、日本昔話くらいしか思い出せない。高校生の時も、「宇宙の不思議」的な本を図書館で借りた程度だ。学生時代もその姿勢に変化はなかったが、社会人になってちょっとした転機が訪れた。

それは、私大連若手職員が企画した「読書会」だ。各人が読んだ本の内容や感想について語り合うような場で、最初は本を読むことが苦痛だった。しかし、私が興味のある本について紹介した回で、「話があまく、とてもよかった」との感想をいただいた。その時の、私の饒舌さと嬉しさをいまでも覚えてる。

私の経験上、受動的に読書をしていては何も入ってこない。何かしらのきっかけがあれば自然に本を読み、それが読書習慣にもつながる。ちなみに、私は読書会をきっかけに、電車の中で読書をずっと進化した。（日本私立大学連盟事務局 阿部 淑恵）

